

B 演習問題

左の文章を読んで後の設問に答えよ。

良岑（注1）の宗貞（注2）の少将、ものへ行く道に、五条わたりにて、雨いたう降りければ、荒れたる門に立ちかくれて見入るれば、五間ばかりなる檜皮屋（注3）の下に、土屋倉（注4）などあれど、ことに人など見えず。歩み入りて見れば、階（注5）の間に梅いとをかしう咲きたり。鶯も鳴く。人ありとも見えぬ御簾（注6）の内より、薄色の衣、濃き衣、上に着て、丈（注7）だちいとよきほどなる人の、髪、丈ばかりならむと見ゆるが、

(1) 蓬（注8）生ひて荒れたる宿を鶯の人來と鳴くや誰（注9）とか待たむ

と一人ごつ。少将、

來たれども言（注10）ひしなれねば鶯の君に告げよと教へてぞ鳴く

と、声をかして言へば、女おどろきて、人もなしと思ひつるに、ものしきさまを見えぬることと思ひて、ものも言はずなりぬ。男縁（注11）に上りてゐぬ。「なかものものたまはぬ。雨のわりなく侍りつれば、やむまではかくてなむ」と言へば、「大路（注12）よりは漏りまさりてなむ。ここはなかなか」と答へけり。時は正月十日の程なりけり。簾（注13）の内より茵（注14）差し出でたり。引き寄せてゐぬ。簾も、縁は蝙蝠（注15）に食はれて、ところどころなし。内のしつらひ見入るれば、昔（注16）覚えて

〔出典〕  
『大和物語』

〔出題校〕  
立教大・法

〔重要語句〕

- いたし
- ことに
- をかし
- 一人ごつ
- ものし
- 見ゆ
- ある
- など
- わりなし
- なかなか
- 口惜し
- やうやう
- やをら
- くやし
- いふかひなし

豊などよかりけれど、<sup>(7)</sup>口惜しくなりにけり。日も<sup>(8)</sup>やうやう暮れぬれば、<sup>(9)</sup>やをらすべり入り  
 て、この人を奥にも入れず。女、<sup>(10)</sup>くやしと思へど、制すべきやうもなくて、いふかひなし。雨  
 は夜ひと夜降り明かして、またのつとめてぞ少し空晴れたる。男は女の入らむとするを、「ただ  
 かくて」とて入れず。日も高うなれば、この女の親、少将にあるじすべきかたのなかりければ、  
 広き庭に生ひたる菜を摘みて、蒸し物といふ物にして、<sup>(注6)</sup>ちやう椀に盛りて、端には梅の花の盛り  
 なるを折りて、その花びらに、いとをかしげなる女の手にて、かく書けり。

君がため衣の裾を濡らしつつ春の野に出でて摘める若菜ぞ

男これを見るに、<sup>(11)</sup>いとあはれに覚えて引き寄せて食ふ。女、わりなう恥づかしと思ひて臥した  
 り。少将起きて、<sup>(注6)</sup>小舎人童を走らせて、すなはち、車にて<sup>(12)</sup>まめなる物、さまざまに持て来たり。  
 「迎へに人あれば、今またも参り来む」とて出でぬ。それより後、絶えず自らも来訪ひけり。

〔大和物語〕による

(注) 1 ものへ行く道に―ある所へ行く途中。 2 下に―裏に。

3 土屋倉―土蔵。 4 茵―敷物。

5 ちやう椀―器の一種。どのような器なのかは未詳。 6 小舎人童―召使の童。

○つとめて  
 ○あるじ  
 ○手  
 ○あはれなり  
 ○まめなり  
 ○今